

知多エルの10年ビジョン (将来像)

2026年2月



知多エル・エヌ・ジー株式会社

はじめに

当社は1980年の設立以来、国内有数の大規模なLNG基地の運営を通してエネルギーの安定供給に貢献し、LNG設備の運転・保守管理技術とともに、冷熱発電や近隣企業への冷熱供給等、冷熱利用に関する技術と実績を積み重ね、確かな信頼を築いてきました。

一方で、近年は技術革新や少子高齢化、地政学リスクの影響等、事業環境が急速に変化し、将来を正確に見通すことが難しい時代に入っています。そうした中、10年後の未来においても、このような外部環境に左右されることなく私たちが目指す将来像の実現に向けた取り組みを進めるべく、今般、10年ビジョンを策定しました。

また、当社が持続的に成長するために、人財も含め親会社に依存した事業運営から「自立/自律」を意識したプロパー主体の事業運営に変革していくことにより、自ら未来を切り拓く力を高めていく必要があります。そこで、この10年ビジョンの策定にあたっては、プロパー社員が主体となり、自らでありたい姿を創造することとしました。

私たちは冷熱技術のフロンティア企業として、安全・安定供給の実績を礎に、冷熱技術といった強みを磨きながら、LNGだけでなく水素やアンモニアを活用した次世代クリーンエネルギーの分野においても、積極的にチャレンジし、当社の企業価値の向上に努めて参ります。

なお、ビジョンの実現には、ステークホルダーの皆さまと共に歩む姿勢が欠かせません。本ビジョンは、株式会社JERA「2035年ビジョン実現に向けた成長戦略」にも合致し、その一翼を担えるよう我々も貢献していくことを前提に策定されていることを申し添えさせていただきます。

代表取締役社長

戸塚 猛喜

(株) JERAは「2035年ビジョン実現に向けたJERA成長戦略（以下、JERA-Vという。）」において、“水素アンモニア-バリューチェーン構築の First Mover となる”ことを掲げているため、JERA-Group の一員である当社としても、その一翼を担えるよう研鑽を積み、貢献して参ります。

そのために、今有している強みをさらに強化すること、加えて、弱みを強みに変えていくことを念頭において、次の三本柱を基軸として当社10年ビジョンを構想して示します。

- ・ 現在の強みをさらに強化すべき柱

「既存事業領域」

「会社運営体制（人財育成・採用を含む）」

- ・ 弱みの克服 + 現在の強みをベースに進展させていくべき柱

「新規事業領域」

現状の環境

- 親会社との協働関係が事業の基盤となっている
- 親会社の判断を委ねながら業務を進めている
- LNG・冷熱権を保有しておらず、冷熱の強みを活かしてきていない
- 基地運開後40年経過に伴う設備の高経年
- 限られた要員数の中で基地運営を担っている
- 一層の生産性向上が期待されている
- 管理部門における教育体系がない（DX・経営・実務教育・新燃料）
- 社員のモチベーション低下の恐れがある（業務の属人化・人事ローテーションができていないこと、特定社員への業務偏り）
- 定期的な採用を行う必要があるが難航している
- 規程類が事業規模に合致しておらず業務効率化が停滞している
- 社員の希望・能力に応じたキャリアパスが示されていない

当社の強み

- 40年以上の安全・安定操業による基地運用のノウハウを所有
- 多種多様な性状のLNG受入、貯蔵、払出技術の経験が豊富
- 豊富な知識と経験により、最適な保守計画の立案が可能
- 低温物質（冷熱）の取り扱いに関してプロフェッショナル集団
- 少人数による基地運営を実現
- 一拠点経営による即断、即決、即実行が可能
- ライフワークバランス（休暇取得率92%）を整える制度が充実

「冷熱技術のフロンティア」 ～既存資産の活用で脱炭素社会へ貢献する～

3本の柱

現在の強みをさらに強化すべき柱

既存事業領域

会社運営体制

弱みの克服+現在の強みをベースに
進展させていくべき柱

新規事業領域

既存事業領域



既存事業の持続的成長・拡大

- ・ 受託業務の生産性向上
他LNG基地の受託業務（JERA）
LNG出荷・棧橋業務の生産性向上・内製化
- ・ JERAからの業務移管拡大（燃料机上業務）



エネルギー取扱技術を活かした 脱炭素事業への貢献

- ・ エネルギー取扱技術を活用した脱炭素事業への利用
遊休地、タンクスペース、プロパー人財の活用
- ・ LNGタンクをアンモニアへ転用 等



設備信頼度（BCP含む）と運用柔軟性の 向上

- ・ 非常用ディーゼル発電機更新
- ・ サンプリング装置更新
- ・ ガス窒素発生装置 2 台目設置 等



生産性向上に資するカイゼン文化の 醸成

- ・ 知多エル式カイゼン文化の確立
（マインドの醸成・手の内化・活動の定着）
- ・ DX化（AI活用等）の推進
事務作業、運転、保全の高度化

会社運営体制（人財育成・採用含む）



組織変革

- ・時代のニーズに沿った組織体制の構築
DX部門・営業部門・広報部門
部署の統廃合、新設など
- ・リスクにも迅速に対応できる組織体制の構築
マルチな人財の育成、柔軟な要員配置



教育の改革

- ・ビジョン達成に必要な新技術の習得（新燃料など）
- ・基地運営のコンサルティングができる社員育成
運用技術（当直・省エネ・DX化）など
- ・教育制度の拡充
業務部におけるマルチ人財育成など
技術部における教育制度の拡充など



人財運用

- ・柔軟な採用による人財の確保
- ・社員が生き生きと活躍できる人事制度の拡充
キャリアアップ支援制度
柔軟なキャリアパスが選択できる人事制度など
戦略的な人事による個人スキルの底上げ・組織の活性化
外販利益の人財開発への投資



連携強化

- ・冷熱ニーズのある企業とのコラボレーション
- ・近隣企業との異業種交流を通じた協業の創出

新規事業領域



経営資源（人財）を活用した 収益基盤の多角化

- ・ 基地運営受託、人財派遣、出向など
- ・ 自社ノウハウ・技術の外販、コンサルティングなど



既存技術／資産を活用した 脱炭素バリューチェーンへの参画

- ・ J E R A 成長戦略のゼロエミッション計画に基づいた水素/アンモニアバリューチェーンへの参画



冷熱を活用した新たな収益源獲得

- ・ L N G 冷熱を活用した新規事業の獲得
構内または近隣企業との冷熱活用
冷熱利用のニーズや外部との連携（営業）による外販



経営資源（設備）を活用した 収益基盤の多角化

- ・ B O G を活用した発電事業など
- ・ データセンター（低炭素電力・冷熱供給）誘致など
- ・ LNGタンクへのペロブスカイト太陽電池の設置（発電事業）

次のフェーズへと進化していく

「安全・安定」という揺るぎない使命を果たしつつ、培った「プロの技術」を未来へのチャレンジへと繋げます。
「冷熱技術のフロンティア」の実現に向け、既存の枠を超えた学びと変革を積み重ね、企業の価値向上と持続的な成長を成し遂げます。

目指す姿「冷熱技術のフロンティア」 ～既存資産の活用で脱炭素社会へ貢献する～

長年培った低温領域の技術と知見を基盤に、タンクの転用や遊休地の有効活用を進めます。
次世代エネルギーの受け入れや再エネ拠点の構築など、今ある資産を最大限に活かすことで、現実的かつ着実な脱炭素化への道を切り拓きます。

知多エルの価値・強み ～「プロの技術」を未来への「チャレンジ」へ～

LNGの安定供給を全うし、未経験領域を「学び」として果敢に挑戦します。また、人財への積極的な投資や業務カイゼンを通じ、弱みを強みへと進化させ、企業の価値向上と全従業員の成長を共に実現します。

知多エルの使命 ～「安全・安定」と「革新」を両立する技術力～

長年の基地運営で培った安全・安定供給の実績を礎に、独自の強みである「冷熱技術」を磨き上げます。この技術でアンモニア貯蔵などの次世代課題を解決し、効率化の追求と革新的な価値創造を両立させていきます。

実現に向けた3本柱の取り組み

既存事業領域

これまでの技術力・ノウハウを
“業務カイゼン”にてさらにブラッシュアップ

会社運営体制

プロパー主体の事業運営への移行

新規事業領域

エネルギーの安定供給と脱炭素化に関する
課題解決に積極的にチャレンジ

